

地島小学校×九州女子大学



令和5年度「むなかた子ども大学の日」プロジェクト

地島は、宗像市の神湊からフェリーで約20分海を渡ったところにある人口120人ほどの島です。ワカメ、ウニ、アワビなどの磯漁業と釣漁業が盛んであり、また島内には約6000本のヤブ椿が自生しており椿油の精油加工も行われています。



地島小学校



泊港渡船待合所

宗像市は「子どもの健やかな成長が保証されるまちづくり」を目指しさまざまな取組を行っています。そのひとつとして「むなかた子ども大学」を開学し、子どもたちが普段の生活で感じている「知りたい」「やってみたい」と興味や関心をもっているテーマについて専門家が講師をつとめ、専門分野(職業)に対する「想い」「楽しさ」「やりがい」などを講義や体験活動を通して学ぶ場をつくっています。

地島小学校では「地域教材を使ったふるさと学習」をテーマとし、地島の特産物である椿油について学び、11月11日(「むなかた子ども大学の日」(※1))に小学生がこれまで学んだことについてプレゼンテーションを行います。

今回九州女子大学がコラボして椿油や献上品の地島わかめを使ったレシピの提供および調理講習会を実施することになりました。

今回、その打ち合わせのため、学生(栄養学科4年)とともに地島へ渡りました。打ち合わせは、地島小学校の先生より「むなかた子ども大学」の趣旨や企画の説明があり、子どもたちに日頃経験できない体験をさせたいという先生方の熱い思いを感じることができ参加した学生は積極的に質問する姿が見られ、「プロジェクトを成功させたい」という真剣な姿が見られました。

また、九州女子大学からは椿油を使ったワカメうどんやドレッシングなど数点のレシピの提案を行い提供する人数の確認や調理道具、調理室など不足している調理器具等のチェックも行いました。

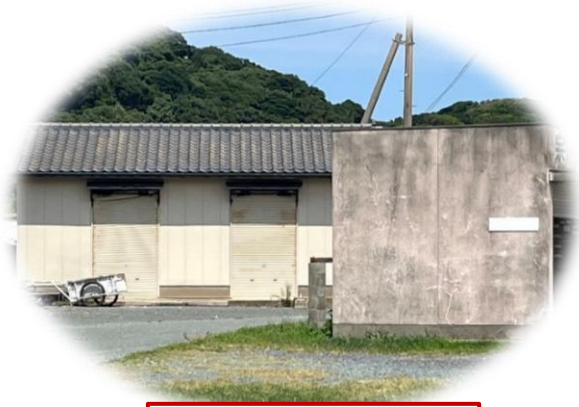
教室に飾られているいろいろな作品や写真を見ると今までの歴史や地域の方々の小学校への思いが感じられ、今回のプロジェクトに対しての責任を感じた一日でした。

(※1)

むなかた子ども大学の趣旨のもと、各小学校・義務教育学校の教育活動の一環として実施。令和5年度は、11月11日土曜日に開催。

当日は、各学校が、保護者、企業、団体など、多様な地域住民と連携・協働し、子どもたちの興味・関心を深掘りする体験活動を多様な形で実施。

また、各学校では、子どもたちが興味・関心をもったテーマについて探究的に学習し発表資料としてまとめ、ICT 機器を効果的に活用し表現する場も設定。



椿油作業所



打合せの様子



地島小学校体育館



教室の名は「つばき」